

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学

就業力育成 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成 3D 教育プロジェクト

## 情報の真偽を見極める眼を育てる

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー



### 略歴

84年名古屋大学大学院卒  
京都大学博士(経済学)。

84～89年京都大学経済研究所  
助手、90～97年滋賀大学経済  
学部助教授・教授。

97年～03年法政大学経営学部  
教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

[fhcdc@hosei.ac.jp](mailto:fhcdc@hosei.ac.jp)

研究室は新一口坂校舎4F

### 正解は一つではない

学生から採用面接に関して、次のような質問を受けることが良くあります。「先生、こういう質問をされたらどう答えたらいいのでしょうか？」正直なところ、答えに困ってしまいます。それは、その質問をした人の意図がどこにあるのかがわからない状態で、何が適切な答えかを知ることはできないからです。学生たちは、その点がわかっていないのです。ある質問には必ず適切な答え、すなわち「正解」があると思っているようです。

面接は対話です。ある質問をして、それに対する答えを受けて、次の質問がなされます。前の質問との関係で次の質問が出てくるのですから、文脈がとても重要になります。例えば、ある学生が、大学の制度を使って、オーストラリアの大学に3カ月間留学したと話します。面接担当者は、そこでの出来事についていろいろと尋ね、「ところで、TOEICを受けたことはありますか？」という質問をすることがあります。その担当者は、TOEICの点数で合否を決めようと思っているわけではなく、話のついでに聞いてみたのです。

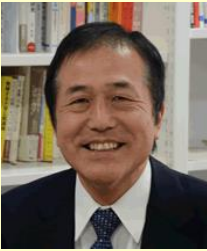
この質問への答えは様々です。「受けたことはありません」と答える学生もいるでしょうし、「受けましたが、500点しか取れませんでした」と答える学生もいるでしょう。胸を張って「受けました。780点でした。」と答える学生がいるかもしれません。そのときの自分の状態を正直に答えるしかないので「正解」は無数にあります。その答えを面接担当者がどう取るかは、そのときの状況によります。面接をする側は、質問をどう受け止め、それに対してどういう答えをするかを見ていると言ってもいいでしょう。

### 情報の真偽を見極める

ネットとは恐ろしいものです。面接が終わると同時に、どのような質問をされたかがネット上を駆け巡ります。ネットに上げられた質問は、前後の脈絡を失い、単独の質問として扱われます。先ほどの会話から「あの会社は TOEICの点数を聞きたい」という噂が流れ始め、「700点はないと内定は出ないそうだ」と、まことしやかな情報を流す人が出てきます。良かれと思ってネット上に載せられた情報が、悪意のある人の手によってねじ曲げられることがしばしば起こります。

「どの情報を信じたらいいかわからない」という声も学生から良く出てきます。何が本当で何が誤った情報なのか、これを判断するのは一見難しそうですが、実は簡単です。論理的、客観的に考えておかしい情報は、ほぼ間違いなく嘘だからです。ただ、情報の真偽を見分ける眼が自分の中に育っていないと、振り回されることになりかねません。

大学では、論文を書く際、自分の主張を裏付けるためにたくさんの情報を収集して吟味し、確かな情報だけをを用いるように指導されます。この訓練をしっかり受けていれば、情報の真偽を見分ける眼が育っていきます。就職活動において「ガセネタ」に振り回されないためにも、アカデミックなトレーニングを通して、情報の真偽を見極める眼を持つことが大切だと思います。



## 新年度に備える

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）

本年度の成績評価を終えるのと並行して新年度準備が求められる。新年度の目玉は秋学期からの新授業の立ち上げ、キャリア講座英語版の開講となる。本学が文部科学省から Super Global University 創成支援事業採択を受けての新設だ。

商社での英語活用と大学でのキャリア教育双方の経験を役立たせるべくお引き受けしたものの、いざ取り組むとなると難関が立ちふさがる。既存のテキストは無く、全てを一から組み上げるのが実情だ。いままで行ってきたキャリア講義を見直してアジア圏からの留学生を中心とした受講生に則した内容で作り上げるという一大作業となる。幸いにしてまだ半年の時間猶予があるのでじっくりと練り上げていきたい。

略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。  
70-06年伊藤忠商事(株)勤務、06-11年  
帝京大学と法政大学職員。  
11年-法政大学教員

## 期末試験とエントリーシートの共通点

特任教員 鈴木 美伸（すずき よしのぶ）

試験採点の長いトンネルを抜けると、就職活動の相談に来る学生が増えてきました。企業に提出するエントリーシートを見てほしいとの依頼が多いのですが、私の企業時代の評価基準は期末試験のそれとよく似ていて、以下のようなものです。

1. 結論から書け → 最初の2行で先まで読む気がおきるか
2. 問われていることを書け → 山が外れても脱線でおわらせるな
3. 書き言葉で書け → 口語体の冗長な文章を書くな
4. 読める字で書け → 私は考古学者ではない(象形文字は読めない)

エントリーシートは、指定文字数(短いと100~300字、長いと500~1000字)によっても書き方を変えるべきですが、一番多い300字程度なら、論文の要約や概要を書く要領で簡潔に凝縮した書き方でよいのです。授業のリアクションペーパーでもこの書き方を指導できますが、意味を圧縮した書き言葉にするには語彙や教養も必要で、口語体ではかなり書いても、読書量が少ない学生の弱点になっているように見えます。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。  
キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

## 「伝統」は作られる(!?)

小金井事務部学務課長 細田 泰博（ほそだ やすひろ）

大学時代の友人たちは今、大学生の親世代。「やっぱり今の子は自分たちの時代とは違うな」という話が出る。大学に来れば「全然変っちゃったなあ。建物も人も」となる。「今の子たちはまじめによく勉強しているよ」と言えば「でも俺たちの頃はバカやっても節度はあったし、やるべきことはやってたな」といった話から「こうやって『良き伝統』が失われていくんだなあ。今の子にはそういうの、できないし判んないよね」となる。「最近の若い奴は…」なんて言葉は大昔から有ったらしいが、「こういう伝統があった」と言うともっともらしく聞こえるし、若い人たちにとっては、まるで今が悪いように感じてしまうのではないか。

新聞で「伝統の捏造」という記事を読んだ。「伝統」と言われるものを史実で確認すると「そんなものはなかった」ということが結構あるそうだ。若者の教育を担う大学では、曖昧な「伝統」を根拠にするのではなく「これはこういう理由で今の社会に必要」と説かなければならないだろう。私たちの就業力育成プログラムではそういった手法がとられていると考えている。ここで学んだ学生たちは、よく判らない「伝統」に振り回されたり自分たちの世代を卑下することなく、社会に進んで行けるだろうと思う。



法政大学社会学部社会学科卒  
学務部教育支援課、学部事務課を経て  
小金井事務部学務課長  
本学応援団監督

### ◆ 教材ビデオ新シリーズ まもなく完成です！

「働く場面を実感させるオリジナル新作ビデオ」の新シリーズⅩ・Ⅺがまもなく完成します。シリーズⅩは金融ビジネス編で、お客様のご要望に応える高いハードルを乗り越えることで成長する若手金融マンについて描かれています。シリーズⅪは日本の伝統的産業である日本酒の蔵元を舞台に、システム導入により効率的な酒造りを模索する若手SEの挫折と奮闘が描かれています。乞うご期待！

◆ 編集後記：先日キャリアセンターをのぞいたら、リクルートスーツの学生で大繁盛していました。すでに就活シーズン真っ盛りですよ。さて、就活と言えば「企業(業界)研究」と「自己分析」が大切と言われています。「企業(業界)研究」といってもネットやパンフの情報の鵜呑みではなく、いかに「生きた情報」を得るかがポイントだそうです。「自己分析」も自分のことは自分でわかっているつもりでも、改めて問われると答えるのが難しいですね。「彼を知り己を知れば百戦殆からず」は孫子の兵法ですが、そういう意味では、まさに就活も戦いなのですね。がんばれ法大生！《事務局: 平山》

法政大学 就業力育成 3D 教育プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成3D教育プロジェクト